

京都暁星高校は 学びの場として 最高の環境です

一人ひとりを大切にする
教育にとことん

こだわっています

“人として大切なもの”を
教えてくれる体験教育が
充実しています

豊かな自然に囲まれた
木造の校舎で落ち着いて
学習に向かえます

7/28 (日) オープンスクール

暁星の雰囲気分かるプログラム
中3生なら一度は来て・見て・感じてほしい！

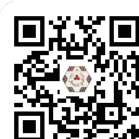
8/24 (土) /25 (日) 個別進学説明会

オープンスクールでは聞けなかった、より詳しい
暁星教育を知ることができるプログラム。
真剣に考えるこの時期にぜひご参加ください！

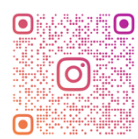
2024 京都暁星高等学校

お問い合わせ：0772-22-2560

e-mail: info@kghs.ed.jp



公式 WEBSITE



公式 Instagram

Welcome to KYOTO GYOSEI

Vol.
01

2024
May

✓ **保護者の方必見！「暁星教育を知る」**
よき家庭 Vol.144 玉手健裕校長寄稿

✓ **オープンスクールなどの入試イベント**
夏までの予定をご案内！

✓ **Instagram 開設1周年！**
フォローして入試情報をゲットしよう！





創立一一六年に思う

聖ヨゼフ学園京都暁星高等学校 校長
玉手 健裕



本校は一九〇七年、日本三景の一つ天の橋立のある、京都北部・丹後の地に女性の地位の向上、自立できる女性の育成を目的として、フランス人宣教師ルラーブ神父によって創られました。明治時代に海を渡ることを決意させたのは、キリスト教への信仰と人に真の幸いをもたらすその価値観を伝えたいという情熱でした。

創立者によって蒔かれた「一粒の麦」がカトリック宮津教会の敷地内に暁星裁縫伝習所としてその芽を出し、二五年後には聖母訪問会のシスター方にバトンが渡され、教職員と共に七〇年余り女子教育が続けられてきました。そして、二〇〇三年に現在の地への学校移転を機に、男女共学京都暁星高校になり、今年創立一一六年目を歩んでいます。五月の創立記念日に、生徒たちと一緒に創立者の墓参り

とは、私たちは歩く募金活動と書いていますが、全校生徒・教員全員が参加します。二六kmの距離を、晴れようが雨が降ろうが歩くのです。当日歩けなかった生徒は別の日に歩きます。参加者全員にその年の支援先が書かれた趣意書のチラシが配られ、参加者は多くの人の趣旨を説明し、自分のスポンサー(協力者)を集めるのです。人と話すことが苦手な生徒たちは募金を集めるために話さざるを得ません。自分でできたという達成感はその生徒に自信を与えます。近所の人、親戚の人にもお願いしたり、出身中学校を訪問している生徒もいます。ウォーカーソン係の生徒は、企業や教会を訪問し協力を求めます。二〇年続く地域に根差した社会活動になっていきます。そして、支援先に実際に出かけ、一緒に作業します。一〇年間フィリピンワークキャンプで毎年七五〇本の植林活動をしてきました。現在はネパールワークキャンプで水道のパイプラインの支援をしています。国内では二〇一一年から東日本大震災被災者支援・復興支援を続け、夏休み・秋休みを利用し、ボランティアにも出かけています。生徒たちの姿を見ていて五感を使っている学びの大切さを感じます。何年も続いているウォーカーソンですが、学校クリスマスでキャンプやボランティアの報告を全校生徒・保護

をし、祈っている学校は「日本全国どこを探してもないでしょう。」と創立記念日に来てくださった神父様に言われました。本当にそうだと気づかされ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ところで、「ありがとう」の語源は「有難い」で、本来あり得ないものがあるという喜び、あること自体が奇跡だという驚き、もともと創造の神秘に深くかわっている言葉であること。この大宇宙がある、存在するという喜び、また一粒のお米が実ること自体、有難く「ありがたい、ありがたい」と言って、おてんと様を拝み、ご飯一粒一粒に手を合わせるのが、本当のありがとうではないか、という一文に触れました。そこから「することへのありがとうではなく、「ある」ことへのありがとう」という視点をいただきました。暁星があることに感謝で

者、教会や同窓会・保護者OBなど、支援いただいたみなさんにするので形骸化することはありません。

今年の文化祭前の校長講話で、こんなことを話しました。一部を紹介します。「英語にcommunity」という言葉があります。共同体と訳されています。「一つのものを共にすること」という言葉に由来しています。私たちは暁星共同体として、生徒・先生・保護者が暁星という一つのものを共有して、一つの体をなしていると言えます。文化祭という一つの目標に向かって力を合わせ準備する期間になるよう願っています。一つの行事が成功のうちに終わるためには、当日までの過程・プロセス・準備が大切です。お互いの関わりが大切です。人にはそれぞれ生まれ持った才能・能力・傾きを持っています。それぞれもっている才能・特技は違います。それぞれの違いを受け取りながら、しかもクラスみんなで一つのものを作り上げていくのです。お互いにありがとうと言える関係を大切にしましょう。そして当日には多くの人にメッセージを発信していきましょう。」と。

暁星で学ぶ生徒たちが創立者の後に続いて、人々と社会のために一人ひとりが「一粒の麦」となる人生を選び、歩んでいくことを決意してほしい。未来に対して、私たちは技術の進

す。過疎化が進み、ますます小規模になっていきますが、木造平屋建ての校舎、「人と人・人と自然」が向き合う大きな中庭、自然に包まれた環境の下で学びを続けていきたいと思えます。

カトリック学校の行事の一つクリスマスを紹介しましょう。本校ではクリスマス行事は、約一ヶ月かけて準備します。粘り強く、地道にこつこつ積み上げて準備して取り組みます。四つの係があるのですが、各係の趣旨説明を聞いて自分がどれに参加するか、自分で選びます。ろうそくの灯火のように自分の身を削って、すなわち、自分の時間・能力・心(おもい)を人のために差し出し、他者に喜びを伝えるという精神で、頭と身体を使って実際に行動します。

たとえば、ウォーカーソンです。ウォーカーソン

歩や、経済的発展のみに希望を置くのではなく、全ての人々が人間を大切にすること、愛と正義と平和に基づいた価値によって実現される社会を築き上げる強い意志を持つことが求められています。生徒たちが心の眼を開いて、希望と忍耐と持続力をもって自分の理想を探究すると同時に、一人ひとりの努力と愛の業が周りの人々の幸せにつながるという信念を持った人間になって欲しいと思っています。

本校は小規模で地味な学校ですが、「一人ひとりと向き合う学びの場」として、生徒たちと共に歩み、時には大人の後ろ姿で示す教育を続けていきたいと思っています。



ネパールワークキャンプの様子。ウォーカーソンの支援で完成した水道を前に、住民の方と記念撮影。